平成30年度　入学式

式　辞

静岡県立大学、短期大学部、そして大学院に入学された諸君、入学おめでとうございます。全教職員を代表して、諸君の入学を心よりお祝い申し上げます。

ご家族の皆様には、ご子弟の入学をお祝い申しあげるとともに、ここまでお育てくださったことに対して、ご苦労さまでしたと労いの言葉を差し上げたく思います。

本日は、静岡県知事川勝平太様はじめ、県議会、奨学金授与団体、県内大学、同窓会、そして後援会などから、多くのご来賓に臨席いただいております。入学生諸君は、それぞれに夢や計画を持って入学されたことと思います。大勢の皆様に支えていただいていることに感謝しつつ、静岡県立大学に入学されたことに誇りと自信をもって勉学に励み、夢と計画の実現に向けて努力してください。

本学は1987年に、静岡薬科大学、静岡女子大学、静岡女子短期大学の3校を統合して設立されました。昨年、開学30周年を迎えました。これからはじまる、新しい30年に向けてスタートしたところです。この節目の年に入学された諸君には、新たな人生のスタートにあたって、考えていただきたいことがあります。

今年の春の本学を卒業した皆さんの先輩は、就職希望者の 97～98％が卒業式までに勤め先を決定することができました。経済状況が良くなっていることと、人口減少によって労働力が不足していることが、就職に有利な状況を作っています。しかしこのような状況がいつまで続くかわかりません。

先週3月30日に、国立社会保障・人口問題研究所が、2015年から2045年までの30年間の都道府県、市町村別の将来推計人口を発表しました。2008年以後、総人口は減少していましたが、東京や沖縄など一部では増加を続けていました。しかしこの度の推計では、2030 年以後はすべての都道府県で人口が減るとのことです。人口減少は消費を減らし、労働力不足から経営が続かなくなるなど、経済への影響が予想されます。

特に地方の人口減少は深刻です。静岡県も例外ではありません。ピークの2007年には390万人、2015年に370万人あった静岡県人口は、2045年には300万人を割って、294万人になると推計されました。20％以上の減少です。市町によってはもっと大きく減少するところがあるので、地域の経営や生活にとって大きな打撃となります。

ある経済雑誌の最新号は、「20年後 ニッポンの課題 衝撃の未来像」と題して正面から人口減少と超高齢化のインパクトについて論じています（『週刊東洋経済』4月7日号）。

しかしみなさんは未来を悲観しているばかりであってはなりません。むしろ人口減少の時代こそ、チャレンジの時代であり、みなさんにとって可能性が大きく開かれた時代だという発想の転換が必要です。

世界は「インダストリー 4.0」とか「ソサエティー 5.0」と呼ばれる時代へと転換しようとしています。情報コミュニケーション技術、あらゆるものをインターネットでつなぐIoT、人工知能、ロボットなどの言葉が氾濫しています。ゲノム編集、ビッグ・データを駆使した新しい医療なども期待されています。新しい産業革命が起き、これまでとは異なる新しい文明社会が到来するというのです。20年、30年先には、どんな時代、どんな社会が待っているのでしょうか。いや、どんな社会をみなさんは創ろうとしているのでしょうか。みなさんが新しい時代の主人公であることを自覚して大いに活躍していただくことを期待しています。

静岡県立大学が目指していることについてお話しします。本学が掲げる理念の一つとして、「地域社会と協働する、広く社会に開かれた大学」を目指すことをうたっています。また目標の一つに、「県政や産業界との連携を図りながら、卓越した教育と高い学術性を備えた研究による成果を還元します」としています。私はこれを「地域をつくる、未来をつくる」という言葉に置き換え、モットーとしました。地方消滅がささやかれる今こそ、県立大学が地域の核となって、アイデアを提供し、次代を担う若者を育てていかなければならない責任を負っていると考えるからです。

本学は平成26年度から文部科学省の補助金による「地（知）の拠点事業」、いわゆるCOC（Center of Community）として『ふじのくに「からだ・こころ・地域」の健康を担う人材育成拠点』に取り組んでいます。豊かな健康長寿社会の実現の担い手を育てることが主眼です。全学共通教育に地元静岡を知ることを目的に、20 科目以上の「しずおか学」や地域づくりに関する科目を、選択必修科目として開講しているのも、地域の未来を担う人材を育成するという、本学のミッションの実践にほかなりません。現在では、学部の枠を越えて、異なった分野の学生のチームが、介護などの地域課題解決への提案を行ったり、ゼミ、サークル単位で観光資源開発や地域特産物の生産、販売に関する研究を行ったりしています。

このプログラムでは、「地域のために、地域とともに」をスローガンに、実践的なコミュニティ・ワーク力を身につけてもらうことを目指しました。コミュニティ・ワーク力とは、地域が抱えている課題を解決するために、世代、分野、職種を超えて「チーム活動」を牽引する能力を言います。COC事業が始まってから丸4年経ちました。そして今年3月に、初めて、コミュニティ・ワーク力を身に

つけたと認定された学生に対して「コミュニティ・フェロー」の称号を授与することができました。短期大学部、大学、大学院の学生 178 名です。またその中から特筆すべき活動を担った学生 7 名を特別表彰することになりました。

今、日本の大学教育も新しい社会の創造に向けて変化しつつあります。本学でも、つぎつぎに各学部でカリキュラムの改定を行っています。来年度、経営情報学部では観光学の領域を開設する予定です。特産品であるお茶に関するコースや、看護学大学院の博士課程設置なども計画されています。これからも静岡県立大学は大きく変わっていくでしょう。

教育と研究を通じて地域への貢献を重視する本学は、国際交流にも力を入れます。グローバルに活躍できる人材を輩出することこそ、地域を強くするものだと考えています。静岡県では現在、「グローバル人材育成の推進」を重要な課題として協議を進めていますが、本学でも、グローバル化基本方針を決定しました。これにしたがって、留学生の受け入れ体制の整備を行い、語学教育の充実を図って、本学からも諸外国に学生を送り出すことを推進します。皆さんも大いに留学にチャレンジしてください。海外との交流によって、自分自身と、地域を見直すきっかけになることでしょう。

社会の変化にあわせて、日本の教育は大きく変わりつつあります。知識や技術を習得することだけが学習ではない。どうすれば新しい知識や技術を生み出すことができるか、主体的に学ぶことが求められています。本学は 5 つの学部と大学院、短期大学部を擁する総合大学です。まずはみなさんが選んだ学部学科で専門的な分野の勉強に努めてください。その上で他の学部学科で学ぶ学生、教員との交流につとめてください。社会の課題を解決するためには、一人一人が高い専門性と広い視野を兼ね備えるとともに、チーム・ワーク力が求められる時代です。大学は皆さんの自立を支えるために、いろいろな形で手を差し伸べ、支援します。皆さんにとって、卒業後も頼りになる生涯の母校となるように努めます。学部の枠を越えて、教職員と一体になって、知の共同体の一員として大学生活を楽しんでいただきたい。誇りと自信をもって「地域をつくる、未来をつくる」主人公として、大いに研鑽を図っていただきたい。健闘をお祈りします。

静岡県立大学　学長
静岡県立大学短期大学部　学長
鬼頭　宏